

災害時に備え 外部救援体制を強化

積丹町は、国道が寸断されると町全体が孤立しやすい半島先端の立地にあるため、陸路と空路が途絶する災害発生時に備え、海からの救援ルートや国・道などの関係機関との初動体制の迅速な確立と連携強化を図るための「災害時孤立集落救援対応訓練」などが行われました。



美国漁港沖でのミサイル艇から巡視艇への要員の乗り換え

救援第一陣をいかに早く

10月13日に行われた訓練は、町全域が集中豪雨により美国小泊地区で大規模な地滑り、神岬沼前地区で崖崩れが発生し、国道229号が寸断。また、悪天候により空からの救援も出来ないことを想定して行われ、小樽海上保安部や陸上自衛隊第11特科隊、海上自衛隊余市防備隊、小樽開発建設部、後志総合振興局などの国や道のほか、NTT東日本や北電など、13の関係機関、総勢229人が参加しました。

午前8時30分、松井町長を本部長とする災害対策本部を設置。災害派遣要請を受けた関係機関の第一陣の要員を乗せた小樽海保の巡視船「えさん」と、海自余市防備隊のミサイル艇「くまたか」が小樽港と余市港から美国港沖へ急行しました。

その後、美国救難所の漁船6隻による要員や資機材の輸送を試みましたが、うねりがあったため中止し、小樽海保の巡視艇「すずかぜ」に乗り換えての上陸となりました。

午後2時には、総合文化セン

ター大ホールに各機関の指揮所の設置が完了し、直ちに被害状況や対策の方針を確認する合同対策会議が開始されました。



合同対策会議

最後に行われた訓練総評では、ライフラインが寸断した場合の救援方法についての課題や訓練の定期的な開催が必要ななどの意見が出されました。

現実に災害が発生した場合に当町では、町職員や消防職員、消防団員など約200人の体制で対応しなければなりません。外部からの迅速な救援が不可欠であるため、今後もこうした訓練を重ねていきます。

柳町地区住民の避難訓練も

この訓練に併せ、美国川が危険水位に達し、堤防が決壊する

恐れがあることを想定した避難訓練も実施されました。

4月から供用が開始されているIP告知端末機と屋外拡声器を利用して、午前11時30分、美国町柳町地区に避難勧告を発令。同地区の13世帯16人が参加し、避難場所の総合文化センターへ移動しました。この日訓練に参加した村上榮枝さんは、「いざという時のために訓練に参加して覚えておかないと」と、また、木村政子さんは、「柳町は高齢者が多く、大雨が降ると川の氾濫が不安です。このような訓練は非常に良いことだと思います。」と話していました。



文化センターに避難する柳町地区の方々

また、全国瞬時警報システム（Jアラート）による津波情報をIP告知端末機と屋外拡声器

により、町内全世帯に配信し、情報の伝達具合の確認も行われました。

このほか、美国婦人会（戸来和子会長）の皆さんの協力で、訓練参加者30人分のおぎりと鮭の三平汁の炊き出しも行われました。



自衛隊11特科隊によるヘリ輸送訓練

美国中学校グラウンドでは、陸上自衛隊第11特科隊によるヘ



リコプターによる空中輸送訓練が行われました。

また、自衛隊が災害派遣活動で使用する装備品や東日本大震災被災地での派遣活動の写真の展示なども行われました。

一日頃、あまり目にする事ができない訓練や災害救助の装備品を一目見ようと、美国小学校の児童や婦人防火クラブなど多くの方が見学に訪れ、隊員の説明に耳を傾けていました。

このほか、同隊の機材での炊き出しも行われ、避難訓練に参加した柳町地区の皆さんや見学者におにぎりやサラダが提供されました。



香美市と災害時相互応援協定を締結

10月14日、高知県香美市と積丹町は、両市町のいずれかの地域において、地震等の大規模な災害が発生した場合の相互応援活動について定めた「災害時相互応援協定」を締結しました。



門脇香美市長(左) 奥山副町長(右)

同市庁舎で行われた締結式には、門脇香美市長、西村同市議会議長、西山姉妹都市友好都市交流推進協議会会長など5人、本町からは奥山副町長、田村副議長、佐藤晃議員など4人が出席しました。

協定の内容は、職員のパ遣や必要な資機材及び物資の提供など、相互の応援による応急措置

赤十字災害救援車『博愛号』が新しく

9月21日、日本赤十字社北海道支部から、災害や事故などが発生した場合の災害救援活動や地域の赤十字活動事業を推進するため、赤十字災害救援車『博愛号』(ニッサンライトバン、総排気量1600cc)が寄贈配備されました。



避難・防災訓練用のぼり旗寄贈

道消防協会後志支部余市分会(二川春雄分会長・赤井川消防団長)は、学校での避難訓練に役立ててもらおうと、町内の各小学校に「避難集合場所」と記したのぼりを寄贈しました。

9月26日、今井積丹消防団長が井平教育長を訪れ、「東日本大震災がもたらした甚大な被害から、改めて避難訓練の重要性を痛感しました。各小学校の避難訓練などに役立ててください。」と、手渡しました。



等の円滑な遂行を定めています。門脇市長は、「今回の積丹町との協定の締結を大変心強く思います。」と、また、奥山副町長は、「北と南の離れた両市町だからこそ有効な協力が行われると思います。」と挨拶し、両市町の住民の安心安全の確保の実現のため、相互の協力提携を惜しまないことを確かめました。